

科目区分：専修別専門教育科目（美術）

授業科目名：日本美術史

## 地域における美術作品を通じて、日本美術史を学ぶ

美術教育専修 上原真依

### I. 授業の概要

「日本美術史」は、学校教育教員養成課程 2・3年生を対象とした、美術中等免許（一種・二種）のための必修科目である。本年は、学校教育教員養成課程 6名（2年生 3名、3年生 3名）が受講した。

#### 1) 授業目的

- ・仏教美術を概観し、その特色を理解する。
- ・時代ごとの文化背景を踏まえて、造形表現との関連性を考察する。

#### 2) 到達目標

- ・日本の美術作品を的確に視る能力を高める。
- ・日本美術の基本的な流れを掴み、各時代・流派の様式を理解する。
- ・作品の機能や制作当時の社会的・文化的背景など、観賞教育に必要な基礎的知識を獲得し、美術作品を歴史的背景との関連性から考察する術を身につける。

#### 3) 関連するディプロマ・ポリシー

造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。（知識・理解）

造形活動などの自己探求を継続する中で課題を明確にして、主体的・自律的な学習ができる。

（関心・意欲）

#### 4) 今年度、特に意識して取り組んだこと

美術作品を正しく理解するには、まず本物を実際に見ることが重要である。しかし、首都圏や関西と異なり、愛媛県下では仏教美術に接する機会も限られている。

作品を実見することは、作品の面白さに気づき、作品を積極的に読み取る姿勢を育む基本である。実物を見て作品について考え調べる習慣を獲得すれば、授業時間外のみならず生涯にわたり美術作品を学習し続けられることは言うまでもない。また、中学歴史や高校日本史の教科書にも数多く登場する仏教美術作品の見方を身につけることは、他教科の指導にも役立つため、実際に作品を見て考えることが重要となる。そこで本授業では、実作品を見ることへの関心を高めることを意識し、見学の機会を設け

ることとした。特に 2019 年度は、美術史に初めて触れる受講生も多かったことから、できるだけ楽しみながら仏教美術を学べる場として、生口島（広島県）の耕三寺を選出した。耕三寺美術館にある快慶作の《宝冠阿弥陀如来坐像》を見学するのはもちろん、耕三寺敷地内には、全国の有名建築の模造や仏像の模像が散在しているため、オリジナルの建築や仏像を当てながら敷地内を散策できると考えたからである。また、授業のテーマとは外れるものの幅広い芸術作品を見て目を養うことが美術史において必要であるため、往路にて大三島のところミュージアムにも立ち寄り、現代アートも体験できる機会とした。

#### 5) 授業方法、形態、内容の概要

本授業は先述した取り組みを踏まえ、①教室で作品実見に役立つ仏教美術の基礎知識を学習すると同時に、②生口島の耕三寺（広島県尾道市瀬戸田町瀬戸田）の見学実習を行った。

##### ① 仏教美術入門編と代表作例

見学実習で実見する宝冠阿弥陀如来坐像は鎌倉時代の代表的仏師快慶の作品であるが、その特徴および技法を正しく理解するためには、仏教美術に関する基礎知識と日本における仏像の変遷を学ぶ必要がある。そこで、仏の種類（如来・菩薩・明王・天）ごとの特徴を紹介しながら、仏像の技法、代表作例を紹介した。

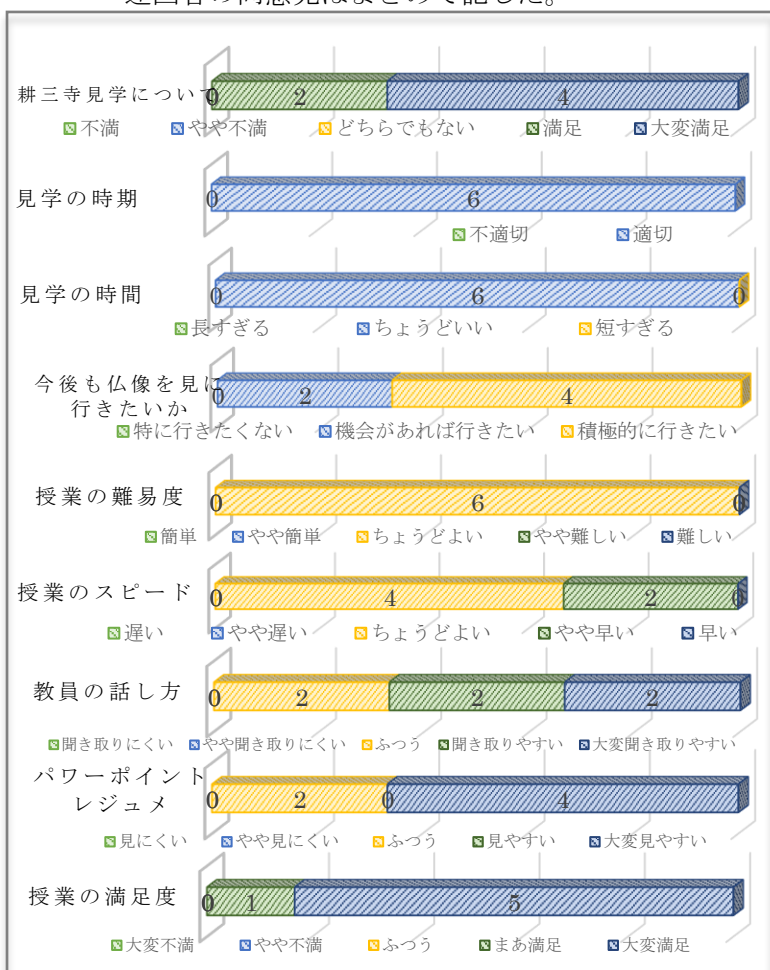
##### ② 生口島の耕三寺（広島県尾道市瀬戸田町瀬戸田）の見学実習

見学のメインとなるのは、耕三寺ミュージアムが所蔵する平安～鎌倉時代の 10 体ほどの仏像である。特に《宝冠阿弥陀如来坐像》（重要文化財）は、快慶作品には珍しい関東の寺社のために制作された作品であり、四国においては珍しい残存状態も良好な鎌倉時代の作例であるため、この機会を最大限に活かすべく秋に下見をして準備を進めた。また耕三寺はミュージアム以外にも仏教思想を反映した作品が敷地内にちりばめられており、授業で取り上げた仏教美術の復習の場にぴったりである。そのため、ミュージアム見学後は自由に敷地内を見て回り、仏

教美術を自分で探しながら体験できるように配慮した。見学日については第1回にアンケートを行い、受講生の都合を聞いたうえで、12月22日(日)に実施した。(なお、積雪など天候の心配から、1月の実施は候補から外した)。耕三寺までの往復には報告者が手配した大型バスを利用した。また、日本美術史以外にも、工芸概説の受講者およびアートと社会の受講者からも参加者を募り、計34名でバスを利用したため費用を安く抑えることが可能になった。耕三寺までの往復には報告者が手配した大型バスを利用した。

## II. アンケート結果

アンケートは独自の質問項目で第15回授業終了後に無記名式で実施した。質問は選択式10項目と、自由記述式3項目で、6名が回答。集計結果は下の通り。なお紙面の都合上、自由記述回答の同意見はまとめて記した。



[耕三寺見学実習について] (自由記述)

- ・耕三寺では現代彫刻も見られてよかった
- ・実際に仏像をみて実践的だった
- ・ゆっくり見学できてよかった

[授業内容について] (自由記述)

- ・映像があるので雰囲気が想像できた
- ・真っ暗だとメモが取りにくい
- ・授業での情報を活用して仏像をこれからも見たい
- ・実際に見るのと写真では全く違ったので、見学して良かった。
- ・推しの仏像ができるように、いろいろ見に行きたいと思った
- ・仏像に関心はなかったが授業を受けてかっこよさが分かった。

## III. 総括

1) アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点

今年度は、初めて5時間目の開講となったため、スライド写真が陽光で飛んでしまうことは無くなり仏像写真をきれいに見せることができた。一方で教室が暗いためメモが取れないという声も上がるようになったのは反省点である。今後はポータブルライトの使用などでメモとパワーポイントとの共存を図りたい。また、例年第1回の授業時に見学実習日を決めるアンケートを実施しているが、欠席者には別途メールで回答をお願いする必要があった。授業開始後にアンケートを取ると開催まで余裕が無いことから、今後は授業開始前の事前アンケートの導入も検討したい。

2) 授業の目的、到達目標、関連DPを踏まえた総括

アンケートおよび見学実習に関する取り組みから、授業の目的や関連DPの(知識・理解)

(思考・判断)はほぼ達成できていると考える。特に実物を見て思考する楽しさに気づき、美術作品への関心を高められた学生は多かった。今後も作品を実際に見る機会を自ら設定し、楽しみを見つけられるような取り組みを考えたい。

### 3) 地域を核とした教育と研究のつながり

報告者の専門はルネサンス期の西洋美術史であり、特に15世紀のイタリア・マルケ地方において祭壇画がどのような社会でどう受容されていたかを研究している。美術館で「作品」として観ると忘れがちだが、美術作品と作品が受容された社会を切り離すことはできない。これは日本美術史の作品においても同様である。本年度は耕三寺を見学したが、有名建築を摸した建物から建立者の思いを感じたり、人々が込めた願いを仏像から読み取ろうとした学生も多く、美術作品と社会の繋がりを実感しやすかったように思う。まさに地域における作品とその受容のあり方を核とすることで、学生も作品をより身近なものとして考察することができた。今後もこうした地域の作品見学を活用した授業を、実施していきたい。